



流通経済大学

履修要綱

流通情報学部

(2026入学生用)

目 次

教育方針

教育課程表

流通情報学科 教育課程表

1. 基本科目	6
2. 外国語科目	6
3. 教養科目	8
4. キャリア科目	10
5. 専門科目	11
6. 教職科目	13
卒業に必要な単位数	14

履修の手引

1. セメスター制	15
2. 単位制	15
3. 最高履修単位数	15
4. 3 学年進級に必要な単位数	15
5. 学籍	16
6. 科目の履修	17
7. 単位の修得	18
8. 授業時間	18
9. 休講と補講	18
10. 出席調査	19
11. 災害時の授業	19
12. 試験	19
13. 不正行為	20
14. 成績評価	21
15. G P A	21
16. 他キャンパス受講	22
17. キャンパス変更	22
18. 演習の履修	22
19. 単位の認定	22
20. 資格の取得	28
21. 「SCM 入門プログラム」 デジタルバッジ	30
22. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (MDASH) の履修	30
23. 情報デザインコース	31

教育方針

流通情報学部教育方針

流通情報学部では、情報科学と流通科学の両者を有機的統合した視点から、これからの新しい社会の姿をデザインできる人材の養成を目的とする。

本学が考えている流通情報学とは、様々な社会課題に対応していくために、情報科学、流通科学の視点からアプローチし、ロジスティクスの考え方を核として、フィジカルとサイバーが融合した Society 5.0 といった新しい経済・社会システムのあり方を追求する新しい学問であると定義づけることができます。

超スマート社会である Society 5.0 の実現に際して、経済・社会システムは大きな転換点を迎えています。IoT (Internet of Things)、AI (人工知能)、ロボットやビッグ・データ解析などの技術が実用化され、情報科学と流通科学の統合である流通情報学の役割が一層重要になっています。流通情報学は、ロジスティクスとデータサイエンスとして、今日、世界的に研究されている分野と重なり合っています。Society 5.0 の超スマート社会では、これらに関する知識と技能をもつ人材のみならず、これらを活用して経済・社会システムにおけるデータの収集・分析や全体最適化を図ることができる人材が望まれます。本学部では、超スマート社会において能力を存分に発揮しうる高度な人材を育成していくことを目標としています。

「ロジスティクス」とは、『顧客が必要とする条件に適合させるように、産出地点から消費地点に至るまでの財とサービスならびに関連する情報のフローとストックを、効率的かつ有効なものとするように計画立案し、実施し、かつ制御する過程』を指します。

流通情報学科の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第4条の2）

流通情報学科では、ロジスティクスを考え方を核として、広い視野を持って経済・社会システムをデザインすることができる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

流通情報学科では、「ロジスティクスを考え方を核として、広い視野を持って経済・社会システムをデザインすることができる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や技能、態度を身に付けた学生の卒業を認定し、学士（流通情報学）の学位を授与します。

【ゆたかな教養】

DP1-1：人文・思想、地域・歴史、社会、自然、健康および外国語に関する幅広い知識を有し、人生全般において文化的で豊かな生活を営むための教養と見識を身に付けている。

DP1-2：キャリアデザインおよび社会貢献に資する教養と見識を身に付けている。

【知識と技能】

DP2-1：流通、物流および情報の学際領域である流通情報学に関する幅広い知識と技能を有し、経済・社会システムをデザインする能力を身に付けている。

DP2-2：実践的な講座により培われた知識と技能に基づいた社会・企業における職務遂行能力を身に付けている。

【問題発見と解決力】

DP3：複雑化する社会における諸問題を発見し、情報やデータを収集・整理し、論理的に分析・解決する能力を身に付けている。

【コミュニケーション力と社会貢献力】

DP4：多様な価値観をもつ人々と積極的に意思疎通のできるコミュニケーション力、ならびに多様な人々と協働し、包摂的で持続可能な社会に貢献する意欲と態度を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

流通情報学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような教育内容および教育方法に基づき教育課程表（カリキュラム）を体系的に編成するとともに、教育評価を行います。

教育内容

CP1：広く社会に貢献できる教養豊かで視野の広い人材の育成に向け、人文科学、社会科学、自然科学に対する理解を深める教養科目を配置する。（DP1-1）

- CP2：国際社会で活躍できる人材の育成に向け、コミュニケーション力の向上を念頭に置いた外国語科目を配置する。(DP1-1)
- CP3：生涯学習のための知識と自己実現に向けた能動的な姿勢を育成するキャリア科目を配置する。(DP1-2)
- CP4：教員免許を取得するための教職科目を配置する。(DP1-2)
- CP5：流通情報学の基盤であるロジスティクスと情報学の基本概念を修得する専門共通科目を配置する。(DP2-1)
- CP6：流通情報学を構成する流通・物流、情報・データサイエンス、融合分野に関する基礎的な知識と技能を修得する専門基礎科目を配置する。(DP2-1)
- CP7：流通・物流、情報・データサイエンス、融合分野に関連する実社会を体験し、その現状を理解する専門実践科目を配置する。(DP2-2)
- CP8：流通・物流、情報・データサイエンス、融合分野における専門知識を生かし、社会課題の解決に向けて問題発見・解決能力を修得する専門発展科目を配置する。(DP2-1、DP3)
- CP9：データサイエンス力を持つ人材の育成の基礎となる情報科目を配置する。(DP3)
- CP10：コミュニケーション能力および課題発見・解決能力を育成するための演習（ゼミ）と卒業研究を配置する。(DP3、DP4)

教育方法

- 各学年に必修科目として演習（ゼミ）を開設し、アクティブ・ラーニングを通じ、学生の能力・資質に応じた少人数教育を実施する。
- データサイエンス力を修得するために、コンピュータを活用する実習科目を開設する。
- ノートパソコンを携帯し、コンピュータ実習のみならず、講義科目および予習・復習で活用する。
- 社会人の客員講師による講義および企業を訪問する実践的な科目を開設する。
- ICTを活用したオンライン授業により、学習者参加型の双方向授業を実施する。
- 資料配布、課題提出および質疑応答ならびにオンデマンド授業を支援するために学習支援システムを活用する。
- リベラルアーツ演習を開設し、幅広い教養を身に付けるために複数の教員からなるオムニバス制で実施する。

教育評価

- 授業科目の達成度評価は、シラバスに明示した到達目標、成績評価の基準と成績評価方法にしたがって、定期試験やレポート、小テスト、実技および発表や報告、質疑などを多面的に組み合わせて行う。
- 教育評価は、教育課程レベルについてのアセスメントプランにしたがって、実施する。

教育課程表

教育課程表の見方

教育課程表には、各学科で設定されている全ての授業科目、履修学年・学期、必要単位数等の一覧が掲載されています。科目選択や卒業要件なども記載されていますので、「卒業に必要な単位数」および別紙「カリキュラムマップ」とともによく読んで、科目を履修してください。

教育課程表は学科、入学年度によって異なりますので、自分の所属する学科、入学年度に該当する教育課程表を参照してください。また、外国人留学生は、外国人留学生を対象とした説明もよく読んでください。

科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目などに分類されます。

- 1) 必修科目とは、定められた配当年次において必ず履修しなければならない授業科目です。
- 2) 選択必修科目は指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して、履修する授業科目のことです。
- 3) 選択科目は自由に選択して履修できる授業科目です。単位数に関する規定はありません。
- 4) 自由科目は成績表には記載されますが、卒業単位には算入されない科目です。

記号の説明

- ◎：必修科目です。履修しなければならない学年が指定されています。単位が未修得の場合は、翌年度以降に履修しなければなりません。
- ：選択必修科目です。
- ◆：選択必修科目です。履修しなければならない学年が指定されています。単位が未修得の場合は、翌年度以降に履修しなければなりません。
- △：必修科目です。選択科目の中で履修しなければならない学年が指定されています。単位が未修得の場合は、翌年度以降に履修をしても構いません。
- ：選択科目です。
- ◎：自由科目です。

記号がある欄の学年は履修できる最初の学年です。この記号のある学年以降の学年でも履修することができます。

春学期または秋学期のいずれの学期に開講されるかについては、時間割で確認してください。

流通情報学科 教育課程表

1. 基本科目

(1) 必修科目 20 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修科目	演習		1年演習 A	2	○				
			1年演習 B	2	○				
			2年演習 A	2		○			
			2年演習 B	2		○			
			3年演習	4			○		
			4年演習	4				○	
	情報		情報リテラシー演習	2	○				
			データリテラシー演習	2	○				

2. 外国語科目

(1) 必修科目 外国人留学生を除く学生は 6 単位、外国人留学生は 8 単位

外国人留学生を除く学生は英語、外国人留学生は日本語を履修します。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修科目	外国語	英語	Comprehensive English 初級 I	1	○				
			Comprehensive English 初級 II	1	○				
			English Communication 初級 I	1	○				
			English Communication 初級 II	1	○				
			Introduction to TOEIC	2		○			
		日本語	(外) 日本語 A I	1	○				留学生履修科目
			(外) 日本語 A II	1	○				留学生履修科目
			(外) 日本語 B I	1	○				留学生履修科目
			(外) 日本語 B II	1	○				留学生履修科目
			(外) 日本語 C I	1		○			留学生履修科目
			(外) 日本語 C II	1		○			留学生履修科目
			(外) 日本語 D I	1		○			留学生履修科目
			(外) 日本語 D II	1		○			留学生履修科目

(2) 選択科目 (必履修) 外国人留学生は履修することができません。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目 (必履修)	外国語	仏語	フランスのことばと文化 I	1	△				
			フランスのことばと文化 II	1	△				
		西語	スペインのことばと文化 I	1	△				
			スペインのことばと文化 II	1	△				
		中語	中国のことばと文化 I	1	△				
			中国のことばと文化 II	1	△				
		韓語	韓国のことばと文化 I	1	△				
			韓国のことばと文化 II	1	△				

(3) 選択科目

外国人留学生は、第一言語（あるいは母語）を履修することができません。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目	外国語	英語	(外) Comprehensive English 初級Ⅰ	1	○				留学生履修科目
			(外) Comprehensive English 初級Ⅱ	1	○				留学生履修科目
			Comprehensive English 中級Ⅰ	1		○			
			Comprehensive English 中級Ⅱ	1		○			
			資格英語Ⅰ	1		○			
			資格英語Ⅱ	1		○			
			メディア英語Ⅰ	1		○			
			メディア英語Ⅱ	1		○			
			English Communication 中級Ⅰ	1			○		
			English Communication 中級Ⅱ	1			○		
		仏語	フランス語会話Ⅰ	1	○				
			フランス語会話Ⅱ	1	○				
		西語	スペイン語会話Ⅰ	1	○				
			スペイン語会話Ⅱ	1	○				
		中語	中国語会話Ⅰ	1	○				
			中国語会話Ⅱ	1	○				
		韓語	韓国語会話Ⅰ	1	○				
			韓国語会話Ⅱ	1	○				
		日語	(外) ビジネス日本語	1		○			留学生履修科目
			留学外国語Ⅰ	1	○				認定科目
			留学外国語Ⅱ	1	○				認定科目
			留学外国語Ⅲ	1	○				認定科目
			留学外国語Ⅳ	1	○				認定科目
			留学外国語Ⅴ	1	○				認定科目
			留学外国語Ⅵ	1	○				認定科目

※ (外) の付いている科目は、外国人留学生のみ履修登録できる科目です。

3. 教養科目

(1) 選択必修科目 24 単位以上

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考
選択必修科目	教養基礎		文章表現法Ⅰ	2	●				
			文章表現法Ⅱ	2	●				
			数理・データサイエンス基礎	2	●				
			教養への扉	2	●				
	教養総合	人文	哲学Ⅰ	2	●				
			哲学Ⅱ	2	●				
			倫理学	2	●				
			宗教学Ⅰ	2	●				
			宗教学Ⅱ	2	●				
			美術論	2	●				
			造形芸術論	2	●				
			言語論	2	●				
			ことばと心	2	●				
			考古学	2	●				
			人文地理学Ⅰ	2	●				
			人文地理学Ⅱ	2	●				
			民俗学	2	●				
			伝承文化論	2	●				
		地域	流通経済大学の歴史／ちばらき論	2	●				
			日本の文学	2	●				
			日本文学の名作	2	●				
			世界の文学	2	●				
			世界文学の名作	2	●				
			歴史学（日本史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（日本史）Ⅱ	2	●				
			歴史学（東洋史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（東洋史）Ⅱ	2	●				
			歴史学（西洋史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（西洋史）Ⅱ	2	●				
			日本文化論	2	●				
			アジア文化論	2	●				
			西洋文化論	2	●				
			イスラム学	2	●				
			ユーラシア学	2	●				
			（外）日本の文化・思想	2	●				留学生履修科目
			（外）日本の現代社会	2	●				留学生履修科目

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
		社会	日本国憲法	2	●				
			法学Ⅰ	2	●				
			法学Ⅱ	2	●				
			政治学Ⅰ	2	●				
			政治学Ⅱ	2	●				
			経済学Ⅰ	2	●				
			経済学Ⅱ	2	●				
			社会学Ⅰ	2	●				
			社会学Ⅱ	2	●				
			心理学Ⅰ	2	●				
			心理学Ⅱ	2	●				
			教育学Ⅰ	2	●				
			教育学Ⅱ	2	●				
			ダイバーシティ論	2	●				
			ポピュラーカルチャー論	2	●				
		自然	数学Ⅰ	2	●				
			数学Ⅱ	2	●				
			地球科学	2	●				
			物質科学Ⅰ	2	●				
			物質科学Ⅱ	2	●				
			生命科学	2	●				
			生態学Ⅰ	2	●				
			生態学Ⅱ	2	●				
			自然地理学Ⅰ	2	●				
			自然地理学Ⅱ	2	●				
			自然環境論	2	●				
		健康・スポーツ	健康科学論Ⅰ	2	●				
			健康科学論Ⅱ	2	●				
			スポーツ科学Ⅰ	2	●				
			スポーツ科学Ⅱ	2	●				
			スポーツトレーニング実技Ⅰ	1	●				
			スポーツトレーニング実技Ⅱ	1	●				
	教養探求		リベラルアーツ演習A	2		●			
			リベラルアーツ演習B	2		●			

※（外）の付いている科目は、外国人留学生のみ履修登録できる科目です。

4. キャリア科目

(1) 選択必修科目 4 単位以上

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択必修			キャリアデザインⅠ	2	●				
			キャリアデザインⅡ	2	●				
			インターンシップ	2		●			
			キャリアカウンセリング	2		●			
			職業選択論	2		●			
			(外) 日本企業論	2		●			留学生履修科目

(2) 選択科目

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目			R K U実践	1		○			認定科目
			海外研修	2	○				認定科目
			災害ボランティアⅠ	1	○				認定科目
			災害ボランティアⅡ	1	○				認定科目
			インターンシップ(海外)	2	○				認定科目
			キャリア資格Ⅰ	1	○				認定科目
			キャリア資格Ⅱ	1	○				認定科目
			キャリア資格Ⅲ	1	○				認定科目
			キャリア資格Ⅳ	1	○				認定科目

※認定科目については、「20. 単位の認定の(3)キャリア科目の単位認定」に詳しい説明があります。

5. 専門科目

(1) 必修科目 8 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考
必修科目	専門共通	物流	ロジスティクス概論Ⅰ	2	◎				
			ロジスティクス概論Ⅱ	2	◎				
		情報	情報学概論Ⅰ	2	◎				
			情報学概論Ⅱ	2	◎				

(2) 選択必修科目 32 単位以上（専門基礎 26 単位以上、専門実践 6 単位以上）

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考
選択必修科目	専門基礎	融合分野	環境経済論Ⅰ	2		●			
			環境経済論Ⅱ	2		●			
			流通情報システム	2		●			
			ロジスティクスとイノベーション	2		●			
			ネットマーケティング論	2		●			
			感性情報工学	2		●			
			マルチメディア・コンテンツ	2		●			
		流通・物流	流通概論Ⅰ	2	●				
			流通概論Ⅱ	2	●				
			マーケティング論Ⅰ	2		●			
			マーケティング論Ⅱ	2		●			
			国際マーケティング	2		●			
			クリエイティブ産業論	2		●			
			ロジスティクスビジネス論Ⅰ	2		●			
			ロジスティクスビジネス論Ⅱ	2		●			
			ロジスティクスシステム論Ⅰ	2		●			
			ロジスティクスシステム論Ⅱ	2		●			
			グローバルロジスティクス論Ⅰ	2		●			
			グローバルロジスティクス論Ⅱ	2		●			
			ロジスティクス管理論Ⅰ	2		●			
			ロジスティクス管理論Ⅱ	2		●			
			経営戦略論Ⅰ	2		●			
			経営戦略論Ⅱ	2		●			
			簿記論Ⅰ	2		●			
			簿記論Ⅱ	2		●			
			交通論Ⅰ	2		●			
			交通論Ⅱ	2		●			
		情報・データサイエンス	データサイエンスのための統計Ⅰ	2	●				
			データサイエンスのための統計Ⅱ	2	●				
			プログラミング基礎	2	●				
			AIのための基礎数学	2		●			
			応用プログラミングⅠ	2		●			
			応用プログラミングⅡ	2		●			
			データベース論	2		●			
			アルゴリズム論	2		●			
			データサイエンス演習	2		●			

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
	専門実践	融合分野	デジタルマーケティング実践講座	2		●			
			SCM 入門プログラムⅠ	2		●			
			SCM 入門プログラムⅡ	2		●			
			IoT ロジスティクス実践講座	2			●		
		物流・流通	N X（日本通運）寄付講座Ⅰ	2		●			
			N X（日本通運）寄付講座Ⅱ	2		●			
			全国通運連盟寄付講座	2		●			
			野村証券寄付講座	2		●			
			国際物流実践講座	2			●		
		情報・データサイエンス	情報システム実践講座	2		●			

(3) 選択科目

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目	専門発展	融合分野	EC 物流論	2			○		
			消費者行動論Ⅰ	2			○		
			消費者行動論Ⅱ	2			○		
			情報システムとイノベーション	2			○		
			マーケティングサイエンス演習	2			○		
			先端情報科学論	2			○		
			先端情報技術論	2			○		
			流通情報学特殊講義	2			○		
		流通・物流	流通政策論Ⅰ	2			○		
			流通政策論Ⅱ	2			○		
			物流政策論	2			○		
			ソーシャルロジスティクス	2			○		
			貿易実務論	2			○		
			グローバルビジネス論	2			○		
			組織戦略論	2			○		
			広告論Ⅰ	2			○		
			広告論Ⅱ	2			○		
			物流関係法	2			○		
			物流事業経営論	2			○		
			プロジェクト学習（ロジスティクス）A	2			○		
			プロジェクト学習（プロダクトデザイン）	2			○		
		情報・データサイエンス	AI 演習Ⅰ	2			○		
			AI 演習Ⅱ	2			○		
			WEBデザイン演習	2			○		
			インターネット技術論	2			○		
			情報化社会における職業と倫理	2			○		
			知的財産法	2			○		

6. 教職科目

教員免許を取得するために必要な科目です。教員免許を取得するためには、表にある科目以外にも履修しなければならないので、別冊「教職課程・履修の手引き」を参照してください。

(1) 選択科目 (卒業単位に算入することができます)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目	教職		教師論	2	○				
			教育原理	2	○				
			教育心理学	2	○				
			教育社会学概論	2	○				
			教育課程論	2		○			
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		○			
			生徒指導論（進路指導及びキャリア教育を含む）	2		○			
			教育相談（カウンセリングを含む）	2		○			
			道德教育論	2		○			
			教育方法学（ICT 活用の理論と実践を含む）	2			○		

(2) 自由科目 (卒業単位に算入することができません)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
自由科目	教職		教育史	2	◎				
			特別な支援を要する生徒の理解	2		◎			
			情報科教育法	4			◎		
			教育実習事前指導	1				◎	
			教育実習（高等学校）	2				◎	
			教職実践演習（中・高）	2				◎	

卒業に必要な単位数

卒業するために必要な単位数は 124 単位です。必修科目、選択必修科目、選択科目の内訳は下表の通りです。

必修科目	基本科目	20 単位	34 単位 36 単位（留学生）	
	外国語科目	6 単位 8 単位（留学生）		
	専門科目	8 単位		
選択必修科目	教養科目	24 単位以上	60 単位以上	左記を含めて 90 単位以上 88 単位以上（留学生）
	キャリア科目	4 単位以上		
	専門基礎科目	26 単位以上		
	専門実践科目	6 単位以上		
選択科目	外国語科目(必修科目含む)			
	キャリア科目			
	専門発展科目			
	教職科目			
合計		124 単位以上		
自由科目	教職科目	卒業単位には含まれません		

履修の手引

1. セメスター制

本学ではセメスター制を採用しています。セメスター制とは、学年を春学期と秋学期とに分け、基本的にはそれぞれの学期（セメスター）で単位を修得し、卒業にいたる制度です。

2. 単位制

単位制とは、「教育課程表」に記載されている科目を履修し、科目ごとに定められている単位を修得して、原則として4年間のうちに、卒業に必要な単位を修得する制度です。

(1) 単位の計算方法

単位は講義科目を基本として1単位あたり45時間の学修を必要とする内容で構成されています。2単位の授業科目は90時間の学修時間が必要という意味です。この内、1/3は授業時間内の学修に、2/3が授業時間外の予習・復習に当てられています。単位数の多い科目は予習・復習にそれだけ多くの学修時間をかけなければなりません。

(2) 科目の単位数

科目の単位数は1単位、2単位、4単位のいずれかであり、「教育課程表」に記載されています。授業は基本的に週1回行われ、その授業形態によって、下記のように単位数が決められています。

- 1) 演習：① 1・2年演習：各学期（春、秋）13回の授業で2単位
② 3・4年演習：通年26回の授業で4単位
- 2) 外国語科目：各学期（春、秋）13回の授業で1単位
- 3) 体育科目・スポーツ実技科目：各学期（春、秋）13回の授業で1単位
- 4) 情報科目：各学期（春、秋）13回の授業で2単位
- 5) 講義科目：各学期（春、秋）13回の授業で2単位
- 6) 実習科目：各学期（春、秋）13回の授業で1単位または2単位

3. 最高履修単位数

年間の最高履修単位数は1・2学年が44単位、3・4学年が49単位です。

各学期の最高履修単位数は、1・2学年では26単位、3・4学年では28単位です。ただし、1・2学年では年間の最高履修単位数は44単位ですので、片方の学期で26単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は18単位となります。3・4学年では年間の最高履修単位数は49単位ですので、片方の学期で28単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は21単位となります。なお、通年で4単位の科目は春学期2単位、秋学期2単位の履修とみなします。

3学年および4学年で前年度までの平均GPAが3.5以上の場合、教務課に申請することにより、年間の最高履修単位数を52単位、各学期の最高履修単位数は30単位とすることができます。

4. 3学年進級に必要な単位数

2学年終了時において、1年演習・2年演習を含め、40単位に達している場合に3学年への進級を認めます。

- ・ 「教育課程表」以外の科目で修得した単位は3学年進級に必要な単位数には含まれません。

- ・ 2年演習の単位を修得できなかった場合でも、1年演習の単位を修得した上で、40単位を満たしていれば、3学年へ進級できます。

なお、卒業までに2年演習の単位を修得しなければなりません。

5. 学籍

(1) 卒業

1) 修業年限

4年以上在学し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生は、「卒業」となります。卒業に必要な所定の単位が修得できずに4年の在学年数を超えて在籍する学生は、卒業に必要な単位を修得した学期で卒業となります。なお、卒業に必要な単位を満たした上で在学することはできません。

2) 学位

卒業した学生には、次の区分に従い「卒業証書・学位記」を授与します。

学部	学科	学位
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
共創社会学部	地域人間科学科	学士（社会学）
	国際文化ツーリズム学科	学士（社会学）
流通情報学部	流通情報学科	学士（流通情報学）
法学部	法律学科	学士（法学）
	自治行政学科	学士（法学）
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	学士（スポーツ健康科学）
	スポーツコミュニケーション学科	学士（スポーツ健康科学）

3) 卒業発表

卒業発表は、毎年3月および9月に行います。

4) 卒業式

卒業が決定した学生は、卒業式に出席し、学生証と引き換えに「卒業証書・学位記」を受け取ってください。

(2) 休学・復学

1) 休学

病気、留学、その他の理由で引続き2ヵ月以上出席することができない場合は、休学することができます。保証人連署の休学届および診断書等を提出してください。休学については、学生生活課に相談してください。

2) 復学

復学する場合は、休学期間終了日までに復学届および理由書を提出してください。また、休学期間中に復学することもできます。復学については、学生生活課と相談してください。

3) 休学による履修中断・履修再開

留学等により秋学期および翌年度春学期を続けて休学する場合、休学を開始する年度の春学期および

翌年度秋学期を通算して、履修済みの通年授業の単位を取得することが可能になります。履修中断および履修再開の両方の申請が必要になります。休学による履修中断・履修再開については、教務課に相談してください。

(3) 転学部・転学科

現在所属する学部・学科から他の学部・学科に転学部・転学科することができます。学部・学科の定員に余裕がある場合で、1年次または2年次の取得単位数等の所定の条件を満たすことが必要になります。転学部・転学科については、教務課に相談してください。

(4) 留学

在籍しながら外国の大学等に留学をすることができます。留学できる期間は原則として1年以内です。1年以内の協定のある大学への「交換留学」、2カ月以上1年以内で留学する「海外留学」、2週間以上2カ月未満の夏季、冬季及び春季の休業期間中に留学する「異文化研修」があります。留学については、国際交流センターに相談してください。

(5) 退学

病気等やむを得ない事情により退学する場合は、保証人連署の退学届を提出してください。退学については、学生生活課に相談してください。

6. 科目の履修

科目の履修に際しては、教室で授業を受けるだけでなく、シラバスや教室での指導に基づいて自主的に予習・復習をしてください。また、指定された参考図書などについても学習してください。

(1) 科目の区分

各学年の学生が履修すべき科目は、「教育課程表」に記載されています。

必修科目：非常に重要度の高い科目であり、指定された学年に必ず履修しなければならない科目です。

指定された学年で修得できなかった場合には、原則として次年度に必ず履修しなければなりません。

選択必修科目：必修科目に次いで重要度の高い科目であり、教育課程表の区分欄に記されている条件を満たすように科目を選択して、履修しなければならない科目です。

選択科目：必ず履修しなければならない科目ではなく、自由に選択して履修することができる科目です。修得した単位は卒業単位に算入されます。ただし、選択科目の中には、履修しなければならない学年が指定されている必修科目があります。

自由科目：成績表には記載されますが、修得した単位が卒業単位には算入されない科目です。また、各学年の最高履修単位数にも算入されません。ただし、スポーツ健康科学部の開講科目を他学部から自由科目として履修することはできません。

(2) 履修登録（事前登録）

科目の履修にあたっては、事前に登録をしなければなりません。この登録が完了した時点で、科目の履修が確定し、各自の時間割が決定します。ただし、一部、登録が必要でない科目もあります。

- 1) 各科目の時間割、担当教員等については、3月に発表します。履修ガイダンスに出席し、各自であらかじめ履修したい科目を決めておき、定められた期間に履修登録を行ってください。
- 2) 指定された期間に履修登録手続を怠った場合や誤った登録をした場合、その年度の履修は無効となります。
- 3) 履修登録は、RKU学務情報システム（以下、「Ring」という）で行います。

7. 単位の修得

- 1) 履修登録した科目に対してのみ単位の修得が認められます。未登録科目を履修しても単位は修得できません。ただし、別に定めるところにより、単位の修得を認めることがあります。
- 2) 履修登録した科目について、「S・A・B・C」いずれかの成績評価が付与された場合に、当該科目の単位の修得が認められます。また、単位が認定された場合には、「R」が付与され、単位の修得が認められます。なお、「D」（不合格）または「／」（評価不能）が付与された場合には、当該科目の単位の修得は認められません。
- 3) 単位は学期（春・秋）ごとに与えられます。通年科目の単位は春学期および秋学期の成績を総合して付与されます。通年科目は片方の学期だけ履修しても単位は修得できません。
- 4) 単位を修得できなかった科目については、再履修してください。ただし、必修科目以外の科目については、別の科目を選択し、履修しても構いません。
- 5) 一度単位を修得した科目（成績の付与された科目）については、再度履修して単位を取り直すことはできません。

8. 授業時間

1 時限目	9 : 00 ～ 10 : 45
2 時限目	11 : 00 ～ 12 : 45
3 時限目	13 : 35 ～ 15 : 20
4 時限目	15 : 35 ～ 17 : 20
5 時限目	17 : 35 ～ 19 : 20

9. 休講と補講

休講の案内は Ring で行います。休講となった場合には補講が行われます。補講は原則として、当該授業のある曜日の5時限または土曜日の午前・午後（龍ヶ崎キャンパス）、6時限または土曜日の午後（新松戸キャンパス）、またはオンラインにて行われます。補講の詳細については、Ringに掲載します。

10. 出席調査

授業では出席を調査します。出席調査はパソコン・スマートフォン・携帯電話、出席カードや提出物等により行います。インターネットや Wi-Fi に接続できるパソコン・スマートフォン・携帯電話等を準備してください。

11. 災害時の授業

台風や大雪、あるいは地震などにより大きな災害が発生した場合には、電車やバス等の公共交通機関が運行できなくなる事態が予測されます。その場合には、その都度、授業を実施するか否かを発表しますので、各自、以下の方法で確認してください。

- 1) Ring <https://ring.rku.ac.jp/>
- 2) 災害時連絡ダイヤル 0297-64-0009

12. 試験

(1) 定期試験

- 1) 定期の試験として、春学期試験と秋学期試験があります。
春学期試験 7月中旬～8月上旬（約1週間）
秋学期試験 1月中旬～2月上旬（約1週間）
- 2) 試験時間割と注意事項は各試験の1週間前までに Ring に掲示しますので、各自で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

- 1) 学生証は必ず携帯し、試験監督者が見やすい場所（机の上）に常に置いてください。学生証を提示しない者は受験できません。学生証を忘れた者は学生生活課で、一日有効の仮学生証（有料）を発行してもらい受験してください。
- 2) 遅刻は試験開始後 20 分以内に限り認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 3) 試験場からの退場は試験開始後 30 分以内は許可しません。
- 4) 試験中は電子通信機器（携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ・通信機能付き電子辞書等）の電源を切り、カバン、バッグなどの中に入れておいてください。
- 5) 時計は、スマートウォッチなど辞書、電卓、ウェアラブル端末等の機能があるもの、およびそれらの機能の有無が判別しづらいものは利用できません。
- 6) 試験場における行動はすべて試験監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は不正行為となります。
- 7) 試験中に不正行為があった場合には、「試験規則」第8条により処置します。不正行為とは、次のような行為です。
 - ・他の学生の答案を見ること。
 - ・他の学生とコミュニケーション（話、目くばせなど）をとること。
 - ・カンニング・ペーパーを持ち込み、それらを見ること。
 - ・許可されていないコピー、テキストなどを持ち込み、それらを見ること。

- ・電子通信機器（携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ・通信機能付き電子辞書等）を触ること。
- ・通信機器を用いて外部と連絡をとること。
- ・あらかじめ机に試験に関する事項を書いておき、それらを見ること。
- ・本人以外の者が代理で受験をすること。
- ・他の学生と物品の貸し借りをすること。
- ・答案用紙を教室外に持ち出すこと。
- ・その他、適正な成績評価を妨げる行為を行うこと。

(3) 追試験

定期試験に欠席した場合には、「試験規則」第4条、第5条により、追試験を願い出ることができません。追試験の願い出は欠席した試験が行われた日から起算して7日以内に行わなければなりません。できるだけ早い時期に必要な公的証明書などを添付して、教務課に申し出てください。入院等により登校できない場合には、教務課に電話連絡をして指示を受けてください。

(4) 再試験

再試験は原則として行いません。ただし、卒業該当年次生で、卒業に必要な単位が不足する学生に対して、次の要件をすべて満たす場合に限り、再試験の受験を認めることがあります。

- 1) 卒業に必要な単位数が不足する場合、その不足科目が4科目以内であること。ただし、5年以上在籍した学生の卒業に必要な単位数が不足する場合には、その不足科目が6科目以内であること。
- 2) 卒業年次に履修登録が行われている科目であること。
- 3) 出席不良等の理由で評価不能「／」とされた科目でないこと。
- 4) 本人の申請があること。

(5) レポート提出に関する注意事項

担当教員の指示によりレポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

- 1) 指示した期限までに指定場所に提出してください。期限後の提出は無効となります。
- 2) 特別の指示のない限り、A4版を使用してください。最初のページに、科目名、担当教員名、課題、学生番号および氏名を黒色で明記してください。

13. 不正行為

試験、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正をしてはいけません。試験中に不正行為があった場合は「試験規則」第8条により処置します。また、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正があった場合は「試験規則」第8条に準じて処置することがあります。

14. 成績評価

- 1) 成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、論文、レポート、口述試験、実技テスト）およびその他担当教員の指定する方法によって評価されます。成績評価方法は、シラバスに記載されています。
- 2) 成績は 100 点法によって評価され、60 点以上を合格とし、下表の基準に従って単位が与えられます。また、単位が認定された場合も単位が与えられます。

合格	「S」90 点以上	「A」80～89 点	「B」70～79 点	「C」60～69 点
不合格	「D」59 点以下	「／」（評価不能）		
単位認定	「R」			

- 3) 成績表は各学期終了後に交付します。ただし、通年科目はその学年終了後に交付します。
- 4) 成績表は各学期終了後に学生および保証人の Ring にも提示されます。
- 5) 成績に関して質問のある学生は、「成績確認願」を教務課に提出し、その成績の確認を求めることができます。

15. G P A

本学では、G P A（グレード・ポイント・アベレージ：履修科目の成績の平均値）を算出する制度を定めています。G P Aは、学生の学習意欲を高めるとともに、本学が掲げる教育の質の保証についての具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的としています。

(1) G P Aの算出方法

G P Aは、G P A対象授業科目のうち、履修登録した科目についてそれぞれの単位数にグレードポイント（4、3、2、1、0のいずれか）をかけ、その合計ポイントを単位数の総和で割ったものとなります。

(2) グレードポイント

成績評価に対するグレードポイントは下表の通りです。

評価	グレードポイント
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0
／	0
R	適用除外

(3) G P A対象授業科目と適用除外科目

適用除外科目を除くすべての授業科目がG P Aの対象となります。

以下の科目は適用除外科目です。これらの科目にはグレードポイントが付加されず、修得単位や成績はG P Aの計算には使用しません。

1. 教育課程表にある科目に関する単位認定科目

2. 編入学または転入学した際の単位認定科目
3. 本学入学前に修得した単位認定科目
4. 他大学との単位互換等で修得した科目

(4) GPAの活用

GPAは、本学大学院の内部推薦基準、奨学生の採用基準、また学修指導や退学勧告の資料等に利用されます。

16. 他キャンパス受講

原則として週1日に限り、他キャンパスで開講される科目の受講を認めることがあります。他キャンパス受講を希望する学生は、履修登録時に教務課に申請してください。

17. キャンパス変更

所定の要件を満たした場合に限り、所属するキャンパスの変更を認めることがあります。キャンパス変更を希望する学生は、秋学期定期試験期間終了までに教務課へ申請してください。ただし、国際文化ツーリズム学科・流通情報学科・スポーツ健康科学部は除きます。

18. 演習の履修

基本科目の演習には、1年演習、2年演習、3年演習、4年演習があります。演習の各クラスは通称「ゼミ」とよばれており、原則として全学年・全員がゼミに所属します。

1) 1年演習

所属するゼミは入学時に指定します。1年演習の未修得者は3学年に進級できません。

2) 2年演習

2年演習の選択は、1学年の秋学期に行います。各ゼミの指導計画を選択申込の前に発表しますので、それらを熟読の上、自由に選択してください。また、相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。ゼミによっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。第1希望のゼミに入らなかった場合には、第2希望以降の定員に満たないゼミの中から、ゼミを決定します。

3) 3年演習・4年演習

3学年、4学年を通じて、同じ教員のゼミを履修します。ゼミの選択は、2学年の秋学期に行います。ゼミの決定方法は、上記の2年演習の場合と同様です。3年演習と4年演習は原則として同一学年で履修することができません。演習の単位を修得できなかった場合には留年となります。

19. 単位の認定

大学の正規の授業以外に、学生のキャリア開発に関連する諸活動や公的機関による資格・検定試験の合格などに、教育課程表にある未修得の科目を履修したものとして単位を認定します。なお、各試験の「合格証（成績表・認定証など）」は申請日から大学入学後に受験し合格したものに限ります。これら

についての履修登録は必要なく、それぞれの認定要件を満たした段階で申請すると、単位が認定されます。認定される単位数は合計で 60 単位までです。また、認定された単位数は、学年別の最高履修単位数には含まれません。

(1) 外国語科目の単位認定

公的な機関による下の表に記した検定試験などで基準点以上の成績を修めた者が、所定の手続きを経た場合には、教育課程表にある外国語科目を履修したものとみなし、その単位を認定します。

認定科目と試験の種類

			2 単位認定	4 単位認定	6 単位認定
英語	実用英語技能検定（英検）	日本英語検定協会	2 級	準 1 級	1 級
英語	TOEIC L&R	ETS	450 点以上	550 点以上	700 点以上
英語	TOEIC Bridge L&R	ETS	80 点以上		
英語	TOEFL	ETS	450 点以上	500 点以上	550 点以上
英語	TOEFL iBT	ETS	45 点以上	61 点以上	79 点以上
英語	IELTS	British Council	5.0 以上	6.0 以上	7.0 以上
中国語	中国語検定（中検）	日本中国語検定協会	準 4 級	4 級	3 級以上
中国語	漢語水平考試（HSK）	漢語水平考試委員会	2 級以上	4 級	5 級以上
韓国語	韓国語能力試験（TOPIK）	韓国教育財団	2 級	3 級	4 級以上
韓国語	「ハングル」能力検定試験	ハングル能力検定協会	3 級	準 2 級	2 級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会	4 級	3 級	2 級以上
フランス語	フランス語技能検定	フランス語教育振興協会	4 級	3 級	2 級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	日本スペイン協会	6 級	5 級以上	3 級以上
日本語	日本語能力	日本国際教育支援協会	1 級、N1		
日本語	J.TEST 実用日本語検定	日本語検定協会	700 点以上		
日本語	日本留学	日本学生支援機構	260 点以上		

- ・ TOEIC および TOEFL の基準点は変更する場合があります。
- ・ TOEIC には「一般公開テスト」（SP）と「団体特別受験」（IP）の 2 種類があります。
 - * 「一般公開テスト」がいわゆる TOEIC で、TOEIC 運営委員会とアメリカの公的機関である ETS（Educational Testing Service）により正式な認定証が発行されます。
 - * 「団体特別受験」は各企業・大学が責任をもって実施する試験で、正式な認定証は発行されません。ただし、TOEIC 運営委員会と実施団体による認定証は発行されます。
 - * 本学では、「一般公開テスト」「団体特別受験」のどちらのスコアでも単位認定の対象とします。

- 1) 単位認定は、春学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その春学期に行い、秋学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その秋学期に行います。卒業・進級学年にあって卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までに申請をしてください。
- 2) 単位認定を希望する者は、教務課窓口それぞれの試験の「合格証（成績表・認定証など）」を学生証とともに提示の上、窓口備付けの「単位認定申請書」に必要事項を記入して「合格証のコピー」とともに提出して申請してください。

申請時に「学生証」「合格証（成績表・認定証など）」「合格証（成績表・認定証など）のコピー」の 3 点を持参してください。

- 3) 同一の外国語で複数の試験・級に合格した場合は、最上位の試験・級のみが単位認定の対象となります。すでに異なる試験・級・得点により単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数です。
- 4) 認定を受けられる単位数は、最高で6単位です。
- 5) 認定される科目は、教務課で確認してください。申請時に履修中である科目は認定の対象になりません。
- 6) 日本語の単位認定を行う場合は、外国語科目の「日本語」各科目のほか、「(外) ビジネス日本語」も認定科目の対象となります。

(2) 外国留学

本学の「留学に関する規則」に基づき、外国留学をした学生に、留学中の学修内容を審査した上で、教育課程表にある科目の単位認定を行います。

- 1) 外国留学を希望する学生は、留学2ヶ月前までに「留学願」を学長に提出し、国際交流センターの承認を受けてください。
- 2) 単位認定を希望する学生は、留学先からの「出席状況および成績に関する証明書」、「修了証」等を添付し、「単位認定願」を学長に提出してください。
- 3) 単位の認定は、国際交流センターの小委員会が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 留学期間中の「演習」については、担当教員と留学者がインターネット等を利用しながら、相互に緊密な連絡を取り合ってください。担当教員は留学者に対して必要な教育、指導を行い、単位を付与します。演習の単位は認定単位には含めません。
- 5) 外国留学をした学生には、「海外研修」(2単位)の単位認定も行われます。
- 6) 留学で外国語科目の認定を受けられる単位数は、最高で6単位です。

(3) キャリア科目の単位認定

キャリア科目のうち、「RKU実践」、「海外研修」、「災害ボランティアⅠ・Ⅱ」、「インターンシップ(海外)」、「キャリア資格Ⅰ～Ⅳ」は認定科目です。

1) RKU 実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② 活動の3週間前に「RKU 実践活動届」を教務課に提出してください。
- ③ ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ④ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU 実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU 実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ⑤ 単位認定を希望する場合は、「RKU 実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU 実践活動証明書」を添えて教務課へ提出してください。
- ⑥ 単位認定は、秋学期定期試験終了時までには申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒

業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

2) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

3) 災害ボランティアⅠ・Ⅱ

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。

- ① 災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ② 単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」（受け入れ機関・団体の証明）を添えて教務課へ提出してください。

4) インターンシップ（海外）

- 1. 大学で募集するカナダ研修（JTB 海外キャリア教育プログラム）
- 2. 「インターンシップ（海外）活動届」を事前に国際交流センターに提出し大学で承認を受けたインターンシッププログラム
 - ① 対象となるインターン活動は、国際交流センターおよび大学が認める無報酬の活動です。
 - ② 活動の2か月前までに「留学願」とともに「インターンシップ（海外）活動届」を国際交流センターに提出し、承認を得てください。
 - ③ 海外での活動の実働時間は、1日3時間以上6時間以内で、90時間で2単位の単位申請ができます。単位認定は在学中1回限りです。

5) キャリア資格Ⅰ～Ⅳ

下記（4）資格取得に記載されている資格・検定試験に合格した場合に、該当する科目を認定します。キャリア資格Ⅰ～Ⅳは、すべて1単位の認定科目です。

(4) 資格取得

大学が指定した資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。ただし、大学入学後に受験し合格・取得したものに限りです。

- ① 資格・検定試験の種類により、資格・検定試験に該当する科目を認定します。
- ② 単位認定は、春学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その春学期に行い、秋学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その秋学期に行います。卒業・進級学年にあつて卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までに申請をしてください。
- ③ 単位認定を希望する者は、教務課窓口それぞれの試験の「合格証（成績表・認定証など）」を学生証とともに提示の上、窓口備付けの「単位認定申請書」に必要事項を記入して「合格証のコピー」とともに提出して申請してください。
申請時に「学生証」「合格証（成績表・認定証など）」「合格証（成績表・認定証など）のコピー」の3点を持参してください。
- ④ 卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

- ⑤ 単位を認定する科目と資格・検定試験は表の通りです。なお、年度によって変更となる場合があります。

単位数	資格名	認定科目 優先1	認定科目 優先2	認定科目 優先3	認定科目 優先4	認定科目 優先5
1 単位	秘書技能検定準1級 (注3) 秘書技能検定1級 (注3) 日商簿記検定3級 秘書技能検定2級 (注3) 日商PC (文書作成) 3級 日商PC (データ活用) 3級 日商PC (文書作成) 2級 MOS (スペシャリストレベル) / MCAS (Word) MOS (スペシャリストレベル) / MCAS (Excel) 漢字検定準2級 (注4) 数学検定 (準2級、2級) (注6) ドットコムマスター-BASIC インフィニ検定 (中級) (注8) ロジスティクス管理検定3級 宅地建物取引士 販売士2級 日商簿記検定2級 国内旅行業務取扱管理者 (注5) 福祉住環境コーディネイター2級 日商PC (文書作成) 2級 日商PC (データ活用) 2級 日商PC (文書作成) 1級 数学検定 (準1級以上) (注6) ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 (注7) ITパスポート 漢字検定2級 (注4) ドットコムマスターアドバンスシンシグルスター インフィニ検定 (上級) (注8) ピアヘルパー・メンタルヘルスマネジメント検定 Ⅲ種 (注9)	キャリア資格Ⅰ	キャリア資格Ⅱ	キャリア資格Ⅲ	キャリア資格Ⅳ	(外) ビジネス日本語 ※ 留学生のみ対象
2 単位						

単位数	資格名	認定科目 優先1	認定科目 優先2
社会保険労務士	経済学Ⅱ 法学部 上記以外	社会保険論Ⅰ、社会保険論Ⅱ、労働経済論Ⅰ、労働経済論Ⅱ、公共経済学Ⅰ、公共経済学Ⅱ 教育課程表の専門展開科目 (総合科目と特設科目を除く) の中から申請時に選択する。	認定科目 優先2
行政書士	法学部 上記以外	教育課程表の専門展開科目 (総合科目と特設科目を除く) の中から申請時に選択する。	
司法書士	法学部 上記以外	教育課程表の専門展開科目 (総合科目と特設科目を除く) の中から申請時に選択する。	
税理士 (1科目のみ)	経営学Ⅱ 法学部 上記以外	教育課程表の専門展開科目 (総合科目と特設科目を除く) の中から申請時に選択する。	
通関士	流通情報学部 法学部 上記以外	グローバルロジスティクス論Ⅰ、グローバルロジスティクス論Ⅱ、貿易実務論 教育課程表の専門展開科目 (総合科目と特設科目を除く) の中から申請時に選択する。	キャリア資格Ⅰ キャリア資格Ⅱ キャリア資格Ⅲ キャリア資格Ⅳ
総合旅行業務取扱管理者 (注5)	国際文化ツーリズム学科 上記以外	キャリアモデル・ケーススタディ、観光産業論Ⅰ、観光地理学	
基本情報技術者試験	流通情報学部 上記以外	アルゴリズム論、インターネット技術論、ソフトウェア設計論、情報化社会における職業と倫理	
統計検定 (2級以上) (注6)	経済学Ⅱ 上記以外	統計学概論Ⅰ、統計学概論Ⅱ	
ファイナンシャル・プランニング技能検定2級 (注7)	経済学科 法学部 上記以外	社会保険論Ⅰ、社会保健論Ⅱ、財政学Ⅰ、財政学Ⅱ、公共経済学Ⅰ、公共経済学Ⅱ 教育課程表の専門展開科目 (総合科目と特設科目を除く) の中から申請時に選択する。	
日商簿記検定1級	経営学Ⅱ 上記以外	簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、会計学Ⅰ、会計学Ⅱ、原価計算論Ⅰ、原価計算論Ⅱ、財務会計論Ⅰ、財務会計論Ⅱ 管理会計論Ⅰ、管理会計論Ⅱ、中級簿記論Ⅰ、中級簿記論Ⅱ、上級簿記論Ⅰ、上級簿記論Ⅱ	
販売士1級	経営学Ⅱ 上記以外	流通論Ⅰ、流通論Ⅱ、マーケティング論Ⅰ、マーケティング論Ⅱ、消費者行動論Ⅰ、消費者行動論Ⅱ	
公認会計士 (短答式)	経営学Ⅱ 法学部 上記以外	財務会計論Ⅰ、財務会計論Ⅱ、管理会計論Ⅰ、管理会計論Ⅱ、上級簿記論Ⅰ、上級簿記論Ⅱ 教育課程表の専門展開科目 (総合科目と特設科目を除く) の中から申請時に選択する。	

(注1) 認定を受ける際は、学生自身の学習・受講により、表内から選択する。
(注2) 学科指定科目の枠内における通用額は、上に記載の科目からとするが、学生自身の学習・受講により選択することができる。
(注3) 秘書技能検定級、秘書技能検定準1級、秘書技能検定2級、秘書技能検定3級、ファイナンシャル・プランニング技能検定2級における最大単位認定数は、4単位までとする。
(注4) 漢字検定準2級、漢字検定2級における最大単位認定数は、2単位までとする。
(注5) 国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者における最大単位認定数は、4単位までとする。
(注6) 統計検定 (2級以上) における最大単位認定数は、4単位までとする。
(注7) ファイナンシャル・プランニング技能検定3級、ファイナンシャル・プランニング技能検定2級における最大単位認定数は、4単位までとする。
(注8) インフィニ検定 (中級)、インフィニ検定 (上級) における最大単位認定数は、2単位までとする。
(注9) ピアヘルパー・メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種の間方を取付した場合には、2単位までの申請ができる。

20. 資格の取得

(1) 教員免許

流通情報学部では、高等学校教諭一種（情報）の教員免許を取得することができます。別冊「教職課程履修の手引き」を参照してください。

(2) 物流技術管理士補

日本ロジスティクスシステム協会による物流技術管理士の入り口資格である物流技術管理士補の資格を取得できます。

日本ではロジスティクス関連の代表的な資格として、中央職業能力開発協会（JAVADA）によるロジスティクス管理と日本ロジスティクスシステム協会による物流技術管理士があります。流通情報学部流通情報学科カリキュラムの指定された科目について、一定単位数以上の単位を修得している者、あるいは当該年度に修得見込みである者は、日本ロジスティクスシステム協会が実施する物流技術管理士補スクーリング（2日間）を受講修了することにより、物流技術管理士補の資格を取得できます。なお、物流技術管理士補スクーリング受講者については人数制限があります。応募者が多数の場合は、該当科目の成績等を勘案して選抜します。

指定科目と必要な単位数は表の通りです。

「物流技術管理士補」資格

指定科目	必要単位数
ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス管理論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム ロジスティクスとイノベーション EC物流論 物流政策論 ソーシャルロジスティクス 物流関係法 物流事業経営論	18 単位以上 なお、申し込み時において、4 単位までの単位修得見込み科目(履修登録していることが条件となる)を含めることは認めます。 すなわち、申し込み時に 14 単位以上は修得済みであることが必要となります。

希望者は指定された期日までに教務課に申し込みをしてください。「物流技術管理士補スクーリング」は、2月と7月、年2回開催されます。スクーリング2日間とも出席し、課題レポートを提出することが資格授与の条件となっています。また、受講料は 35,000 円（予定、税別、本学学生の特別料金）となっています。「物流技術管理士補スクーリング」の詳細は、日本ロジスティクスシステム協会のホームページで確認してください。

(3) 商業施設士補

『商業施設士補』資格とは、商業施設の企画・設計・デザイン・監理等関する知識を有していることを証した資格制度です。指定された科目について、一定単位数以上の単位を取得している者、あるいは当該年度に取得見込みである者は、商業施設士補資格講習会（1日間）を受講修了することにより資格を取得できます。講習会参加希望者は、大学からの案内、または公益社団法人商業施設技術団体連合会の案内を確認して、教務課に申し込みをしてください。なお、大学経由で申し込む場合は、決められた期日までに学校推薦を受ける必要があります。指定科目、必要な単位数については以下の表で確認してください。

『商業施設士補』資格 教科カリキュラム 必要単位数

【A群】の科目を30単位以上（ただしA-2の科目を2単位以上）取得し、かつ【B群】の科目を4単位以上取得する必要があります。

【A群】

区分	内容	充当する教科名	単位数	必要単位数
A-1 商業一般	商業一般に関する科目	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ 流通概論Ⅰ・Ⅱ マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ グローバルビジネス論 組織戦略論 流通情報システム ロジスティクスとイノベーション 広告論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング クリエイティブ産業論 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ EC物流論 物流事業経営論	各2	「A-1 商業一般」「A-2 業態計画」の科目について、合計30単位以上取得していること。かつ、「A-1 商業一般」だけでなく、「A-2 業態計画」についても2単位以上取得していること。
A-2 業態計画	商業施設の構成に関する科目	流通政策論Ⅰ・Ⅱ マーケティングサイエンス演習	各2	

【B群】

区分	内容	充当する教科名	単位数	必要単位数
B 文章表現	プレゼン・マーケティング・コンサルにより、商業施設を構想し表現することに関する科目	データサイエンス演習 AI 演習Ⅰ・Ⅱ デジタルマーケティング実践講座 SCM 入門プログラムⅠ プロジェクト学習（ロジスティクス）A プロジェクト学習（プロダクトデザイン）	各2	「B 文章表現」の科目について、4単位以上取得していること。

21. 「SCM 入門プログラム」 デジタルバッジ

「SCM 入門プログラム」資格は、本学が実施する社会人向けの「SCM プロフェッショナル人材育成プログラム」と連動して、本学が学部生に対して発行する資格です。「SCM 入門プログラムⅠ・Ⅱ」の単位を取得し、ロジスティクス管理3級に合格することが条件となります。資格を取得した学生に対しては、「SCM 入門プログラム」のデジタルバッジを発行します。

22. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (MDASH) の履修

(1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (MDASH) について

ビッグデータ、人工知能 (AI)、IoT など、近年様々なメディアで大きく報道されている先端情報科学技術の発展が、私たちの生活を支える様々な社会システムを大きく変えようとしています。そのような現在、数理・データサイエンス・AI について、リテラシーレベルの知識だけでなく、それらの知識を社会に出て実際に活用できる力が強く求められています。

そのような人材の育成のために、流通情報学部では数理・データサイエンス・AI に関する高度な教育プログラムを開講します。このプログラムは文科省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (MDASH)」の応用基礎レベルの認定を受けた信頼性の確かなものです。これは、全学部で認定されているリテラシーレベルよりも高度な内容の教育を行うプログラムであり、このプログラムを修了すると、文部科学省認定の修了証明書であるデジタルバッジが発行されます。

このプログラムのデジタルバッジを取得する利点は、現在の高度情報化社会における数理・データサイエンス・AI の学習成果を、信頼性の高い形で可視化・共有し、就職活動やその後のキャリア形成に直結させられることにあります。

具体的には、次の3つの大きなメリットがあります。

[1] 数理・データサイエンス・AI スキルの「確実な証明」

- ・ 第三者による認証：MDASH は文部科学省が認定するプログラムであるため、このデジタルバッジが「高度な数理・データサイエンス・AI の知識を有している」ことの第三者に対する客観的かつ信頼性の高い証明となります。
- ・ 改ざん防止：このデジタルバッジはブロックチェーン技術などで保護されたデジタル証明であり、紙媒体の修了証よりもセキュリティが高く、信頼性が担保されます。

[2] 就職活動や実務での「アピール力向上」

- ・ SNS や履歴書への共有：取得したバッジは LinkedIn やメール署名、WEB 上の履歴書に簡単に貼り付けることができ、企業の採用担当者にデジタルスキルを即座に伝えることができます。
- ・ 「データを使える人材」の証明：いまや、どのような業界でも求められる「データサイエンスや AI の知識」を学んだことの証明となり、キャリアの差別化に繋げることができます。

[3] デジタル上の「利便性と管理」

- ・ 一生涯の資産：デジタル形式であるため、紛失の心配がありません。専用のウォレットで管理し、いつでもどこでも確認・提示が可能です。
- ・ 詳細情報の紐付け：バッジには取得日や発行機関、学習内容の基準などのメタデータが含まれており、見た人がすぐにスキルレベルを検証できます。

つまり、このデジタルバッジは、現代の高度情報化社会において、自身の能力を客観的に証明し、キャリアアップを有利に進めるための強力なデジタル・ツールです。

(2) プログラムの修了要件について

このプログラムを構成する必須科目 10 単位と選択必修科目 6 単位の計 16 単位を取得することです。

必修科目 5 科目（各 2 単位）		
開講時期	科目名	卒業要件
1 年生春学期	情報学概論Ⅰ	必修科目
1 年生春学期	データサイエンスのための統計学Ⅰ	必修科目
2 年生春学期	応用プログラミングⅠ	必修科目
2 年生秋学期	応用プログラミングⅡ	必修科目
3 年生春学期	先端情報科学論	必修科目

選択必修科目 7 科目（各 2 単位）		
開講時期	科目名	選択卒業要件
1 年生秋学期	情報学概論Ⅱ	選択必修科目
1 年生秋学期	データサイエンスのための統計学Ⅱ	選択必修科目
1 年生春学期	数学Ⅰ	選択必修科目
1 年生秋学期	数学Ⅱ	選択必修科目
2 年生春学期	アルゴリズム論	選択必修科目
2 年生秋学期	データサイエンス演習	選択必修科目
3 年生秋学期	先端情報技術論	選択必修科目

(3) デジタルバッジ発行の手続きについて

上記の修了要件を満たした時点で、デジタルバッジの発行が可能です。従って、最短で 3 年生の春学期の修了時点でデジタルバッジの発行が可能となり、就職活動に役立てることができます。また、卒業時に修了要件を満たした場合でも、その後のキャリア形成に役立てることができます。

デジタルバッジの発行には、修了要件を満たした学期の終了時点で、本人による申請が必要です。申請後、所定の手続きを経て、発行します。申請の詳細については、Ring や manaba に掲示しますので、確認して下さい。

(4) 関連リンク

<https://www.rku.ac.jp/about/data/datascience>

23. 情報デザインコース

所定の単位を取得し、所定の要件を満たした場合は、卒業時にコースを修了した旨が認定されます。なお、コースを選択・修了しなくても、卒業に必要な単位を取得すれば卒業することができます。コースを選択しない学生は、別紙「カリキュラムマップ」を参考に履修計画を行ってください。

1) 「情報デザインコース」を修了するためには、指定された科目から所定の単位を取得し、所定の要件を満たさなければなりません。

2) コース選択の申請や手続きは必要ありません。ただし、コース科目は1学年より配当されているので、コース選択者および予定者はコース科目を中心に履修登録をしてください。

現代のインターネット社会では、基本・応用ソフトの操作といった「情報を使う」能力に加えて、ゲームやWEBアプリなどのソフトの設計・開発である「情報を創る」能力、WEBデザインやプレゼンテーションなどの「情報を伝える」能力、e-ビジネスにおけるマーケティングなどの「情報を活かす」能力が重要視されています。情報デザインコースでは、豊富な実習形式により、実際に手を動かして自らが情報をクリエイトすることによって、インターネット、パソコン、スマートフォンなどに含まれるさまざまな情報を「創る」「伝える」「活かす」能力を身につけることができます。

情報デザインコースは、将来、

- ・ゲームやWEBアプリ開発など、ソフトクリエイターを目指す人
- ・ITビジネスの企業家を目指す人
- ・IT企業のシステムエンジニアを目指す人
- ・WEBデザインや商品デザインの分野で活躍したい人
- ・インターネットによる商品取引やマーケティングの分野で活躍したい人

に最適なコースです。

情報デザインコース修了の資格と科目

表の情報関係の資格から2単位以上が認定され、選択科目から24単位以上を取得する必要があります。

情報関連の資格(2単位以上)	選択科目(24単位以上)
資格(1単位) 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) ドットコムマスターBASIC	データサイエンスのための統計Ⅰ・Ⅱ プログラミング基礎 感性情報工学 アルゴリズム論 ネットマーケティング論 データサイエンス演習 応用プログラミングⅠ・Ⅱ
資格(2単位) 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 ITパスポート ドットコムマスターアドバンスシングルスター セキュリティマネジメント試験	マルチメディア・コンテンツ データベース論 情報システム実践講座 AI演習Ⅰ・Ⅱ WEBデザイン演習 インターネット技術論
資格(4単位) 基本情報技術者試験	情報システムとイノベーション 情報化社会における職業と倫理 先端情報科学論 先端情報技術論

2026年（令和8年）4月発行

流通情報学部

履修要綱

流通経済大学



流通経済大学

<https://www.rku.ac.jp/>